

平成 29 年度花巻市博物館協議会会議録

1 開催日時

平成 29 年 7 月 20 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 3 時

2 開催場所

花巻市博物館 講座体験学習室

3 出席者

(1) 委員 8 名

佐藤由紀男委員(会長)、浅沼昭男委員(会長職務代理者)、佐々木力也委員
富永秀寿委員、晴山淳子委員、伊藤實委員、平野榮一委員、阿部茂巳委員

(2) 事務局(博物館) 6 名

布臺一郎教育部長、高橋信雄館長、鈴木和志副館長、照井弘道主任主査兼管理係長
小原克仁主任主査兼学芸係長、伊藤順子事務嘱託員

4 議題

(1) 平成 28 年度事業報告について

(2) 平成 29 年度事業計画について

5 議事録

(事務局 鈴木)

これより、平成 29 年度花巻市博物館協議会を開始いたします。

初めに、花巻市博物館長高橋信雄からご挨拶申し上げます。

(事務局 高橋館長)

みなさんお忙しい中、この協議会へ出席いただきましてありがとうございます。

博物館は 14 年目となっておりますが、様々な状況の変化の中で、どう市民に開かれた博物館にするかということで、例えば、毎年行っている花巻人形展にしましても、「今年の人形展は良かったですよ」という評価をいただいております。

今までの実績を踏まえながら、更により良い博物館に向かってということ、特に若い学芸員が新しく入ってきているので、こういった意味で一から見直しながらやっていきたいと思っております。特に昨年度、開館当初から博学連携という博物館と学校がどう連携していくかということについて、最初から毎年委員会を開いて、学校の先生方の協力を得てやってきました。昨年の実績をみますと非常に増えてきて、特に学校への出前授業だけでなく、博物館は資料を持っておりますので、子供さん達に資料を通して色々な花巻市の歴史なり様々なものを理解してもらうということで、資料を持って出かけていく出前講座というものも非常に増えてきております。当館に来てもらって、例えば「ハンズオン」といって触ってみるとことを子供さんたちに経験していただくことも、学校の方にも浸透してきたという感じがあります。去年は増えてきておりますし、今年はさらに増えていま

す。今まではどちらかというと来てもらうという一方通行的なものでした。学校の先生方と当館の学芸員と社会教育指導員が連絡を取り合って、子供さん達にどうやったら良い情報提供が出来るかということのを充実しつつあるような気がします。そういった意味では委員の皆様にも色々ご意見をいただきながらより良い博物館にしていきたいと思っておりますので、ご意見を賜りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

(事務局 鈴木)

続きまして議事に入らせていただきます。花巻市博物館管理運営規則第9条第2項に基づき、「会長は会務を総理し、会議の議長となる」と規定されておりますので、以降は会長が議長となり議事進行をお願いいたします。以上で事務局による進行を終了させていただきます。

それでは、佐藤会長よろしく申し上げます。

(佐藤議長)

会長の佐藤由紀男でございます。新しい委員の方もいらっしゃいますので、前にもお話ししたことがございますけれども、この博物館協議会というのは博物館法の第20条の規定によって設けられています。登録博物館では博物館協議会を置くことができるということになっています。みなさんご承知のことではありますが「置くことができる」ということは必ず置かなければならないということではなく、ある意味では置くことが望ましいという形でして、岩手県内の登録博物館の中には協議会を置いていないところもあつたりしますので、そうした意味ではこの博物館の活動というのは極めて見識が高い、こうした協議会を置いていることも見識が高いというふうに考えております。また、博物館協議会は何かを決めなければいけないというところではなくて、館長の諮問に応じて委員が意見を述べるというところですので、忌憚のないご意見を申し上げます。また、高橋館長から博学連携が大分進んでいるということで、博物館教育の関係で大分より良い方向に向かっているかと考えています。館長には岩手大学の博物館教育論の授業を担当していただいておりますので、館長自身極めて見識が高いわけですが、皆さんの忌憚のない意見をいただいて、博物館の活動をより良い方向に進めていくようにご助力をお願いしたいと思っております。では、議事に入ります。議事の1「平成28年度事業報告について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

(事務局 鈴木)

それでは皆さんにお配りしております平成29年度花巻市博物館協議会資料をお開きください。1頁目花巻市博物館の概要とございます。設置の目的から企画展示のところございますが、こちらは皆様の方でお目通し願います。続きまして、展示の構成であります。当館は常設展示と企画展示の2室を用意して転じております。現在は、多田等観点を企画展示室で行っております。会議終了後ご覧いただきたいと思っておりますので、ご紹介いたします。

次の頁9沿革であります。こちらの方は

平成3年準備室を設置からスタートしまして、平成16年4月に開館しております。3頁目右側最後の下段ですが、平成28年度は「発明王エジソン展」を開催しています。詳しく

い入館者数につきましては後程ご説明します。私からは以上でございます。続きまして小原から説明いたします。

(事務局 小原)

私の方は資料の4頁から13頁までご説明を申し上げます。

4頁博物館事業の概要のところでございます。始めに平成28年度調査研究活動でございます。博物館は4本の柱で成り立っております。資料の収集、調査研究、展示活動、教育普及で成り立っており、最初に調査研究活動から申し上げたいと思います。資料の19頁を開いていただけますでしょうか。こちらに組織及び職員構成が掲載してございます。平成28年度左側、平成29年度右側となっておりますが、学芸係に関しては昨年と体制は変わっておりません。学芸係7名になっております。私が小原克仁学芸係長で総括を担当しております。上席主任学芸員の小原伸博、美術工芸担当でございます。主事学芸員の小田桐睦、歴史担当でございます。主事学芸員の髙橋静歩、考古担当でございます。主事学芸員の小田島智恵、歴史担当と教育普及を担当してございます。ただいま産後休暇で休んでございます。学芸調査員の因幡敬宏、歴史分野と教育普及を担当してございます。社会教育指導員非常勤の菊池恵津子、博学連携を担当してございます。今一度ご確認をお願いします。それでは4頁に戻っていただきたいと思います。花巻市博物館は花巻の考古歴史美術工芸この3つの分野の資料を使って調査研究活動を行っています。まずは、花巻の考古ということで先ほどご紹介しました髙橋静歩が岩手県における古墳時代から平安時代の赤彩土器研究を行っています。赤彩土器に関しましては、常設展示の方で何点か展示してありますので見ていただければと思います。それから花巻の歴史分野に移ります。小田桐学芸員は2つほど調査研究テーマを持っています。一つは盛岡藩領の火災に関する研究です。小田切学芸員は元々近世における災害史を調査研究しています。藩だけではなく広く東北各地の災害についての歴史を調査しています。花巻市博物館におきましては、盛岡藩領のものを調査研究しております。この調査研究につきましては今年の3月に発行になりました研究紀要第12号におきまして、享保前期盛岡藩領に置かる火災に関する基礎的考察という形でまとめてございます。次に松川家文書の調査。花巻御給人松川家、花巻市城内にございます松川家住宅と言っておりますけれども、そこに伝来しました古文書関係7千点を当館に寄託いただいておりますが、その調査を行っています。今回その調査の成果の一つといたしまして、花巻城の本丸御殿図が確認できました。後程平成29年度事業説明で説明いたしますが、今年開催予定の花巻城展で、ご紹介をしたいと考えております。次に因幡敬宏に移ります。古館家研究の課題と今後の研究方針。鍛冶町焼き、花巻人形といったものを作っていた古館家の調査研究でございます。盛岡藩の焼物師として活躍した家系です。それから髙橋静歩・小田桐睦弥・因幡敬宏の3人の共同研究となっております城郭調査と花巻城関連調査研究として南部領の城館について現地に赴き調査を行っています。この調査成果につきましては、この後の花巻城展の中で生きるかと思われま。次に小田島智恵ですが、花巻の先人調査ということで、全国的にも有名な石鳥谷の南部杜氏と酒造りの歴史や習俗といったものの調査を行いました。県内だけでなく八戸市の図書館に赴いて藩政時代の資料等を調査し、昨年度の共同企画展の中で調査の成果を展示公開してございます。それから、花巻の美術工芸について、小原伸博が担当しております。

菊池黙堂執筆の「漫遊記事」－東京から近畿までということで、東和町出身の文人画家で菊池黙堂という人がございますけれども、日本国内を遊歴して絵の勉強をしながら、人物との交流や各地の事績などをまとめた「漫遊記事」をまとめてございます。それも東京から近畿までの分について調査しています。以上が調査研究活動でございます。

それでは引き続きまして、隣の頁に移ります。(2) 資料収集活動。平成28年度に寄贈を受けた資料の内容でございます。全部で16件682点になっております。歴史分野の昭和の家電製品や花巻人形、それから古文書関係等のものがございます。目立ったところでは美術工芸分野の花巻人形の寄贈が結構たくさん寄贈を受けております。昔、花巻人形を飾ったり、人形で遊んだりしたもので、もう遊ばなくなった方々が、ご高齢になって守り切れなくなり、博物館で預かってもらいたいというケースがここ何年間は多くなってきている傾向があります。

それから、特徴的などころでは10番の美術工芸花巻の三画人ということで、小野寺習徳、八重樫豊澤、松本雪舟三人おりますが、その中の小野寺習徳の山水画他6点の寄贈を受けております。木村さんをいう小野寺習徳の直系の子孫に当たる方から頂戴した資料でございます。以上、資料収集活動をご報告しました。

引き続きまして6頁をご覧ください。博物館の展示活動になりますが、期間展示と展覧会でございます。期間展示につきましては、エントランスホールに入って正面突き当りのガラスケースのところになります。そちらで、1から2か月ぐらいの期間を区切って、「これは！」という資料を展示しております。市の指定文化財であるとか、展覧会に絡んだ資料について展示してございませう。1番平澤屏風山の「蝦夷風俗十二月屏風」から3番新藤二郎作「脇指 銘新藤二郎義国」までは市の指定文化財でございます。2番、3番については刀関係の資料でございますが、平成27年度に市内の方から寄贈を受けたものです。それから、エジソン展関連では新興製作所で持っております「クラインシュミット型鍵盤さん孔機」といって今でいうとファックスの原型になるような資料ですけれども、エジソン展に絡んで、花巻市で発明された偉大な発明品として紹介させていただきました。②展覧会に移ります。新規が5事業、前年度から継続しているものが1事業で、継続しているものが最初にあります花巻人形展でございます。毎年年度またぎで、ゴールデンウィーク中まで開催しています。テーマ展花巻人形展百花繚乱につきましては、研究紀要10号の中で花巻人形の種類ということで形状の違う人形の分類をしております。この時点では、花巻市博物館で所蔵する花巻人形は1478点ありますが、それらを約500種類に分たし、内裏雛・信仰縁起物・歴史上の人物・風俗・生物の5つに分類しまして展示をいたしました。参考までに、現在花巻市博物館には花巻人形の資料は約3600点ございます。先ほども申しましたとおり、かなりの数が集まっておりますが、今後の資料保存について検討していかなければならないと考えております。次の7頁、テーマ展多田等観展・当館が辿った道です。等観展につきましては7月1日が等観の生誕日に当たるので、毎年この時期に等観を顕彰する展覧会を行っております。

今年に関しましては特別展ということでまた別な角度でご紹介しておりますが、これについては後程ご紹介いたします。昨年度は等観が辿った道ということで、その道という部分に拘って展示を構成しております。1番目から運命の道、チベットへの道、日本への道、花巻への道として、最後は花巻と多田等観の関係をご紹介しております。この関連事業と

して講演会を開催しています。岩手大学人文学部准教授の西田先生にお願いしました。次の8頁です。特別展「発明王エジソン展 創造と努力のキセキ」ということで展覧会を開催しました。この展覧会につきましては、栃木県にございますバンダイミュージアムからエジソンの資料をお借りしまして展覧会を行っております。役10点を借りて展示いたしました。展示の構成につきましては第1章から母の存在、発明王への道、発明の連鎖、エジソンが残したものということでご紹介しております。関連事業につきましては、バンダイミュージアムの館長でございます金井正雄さんお願いしてギャラリートークを開催しました。それから紫波にあります野村胡堂あらえびす記念館に委託しまして宮沢賢治が愛した音楽ということで蓄音機コンサートを開催しております。それから市内の音楽ユニット岩手大学を卒業された森のみんなという方々が、宮沢賢治の童話シグナルとシグナレスを戯曲化してコンサートを行っております。それから市内にございます花巻少年少女発明クラブの作品も同時に展示して、未来の花巻のエジソンということで花巻少年少女発明クラブの展示も行いました。以上が発明王エジソン展でございます。

次にテーマ展博学連携収蔵資料展「ふれてみる歴史と暮らし」でございます。先ほど館長からも説明がございましたが、ハンズオンということで実際に資料を手にとってみるができるという展示を行いました。ふれてみる歴史と暮らしというと何となく最近のものをイメージする部分もあるでしょうが、展示の構成といたしまして縄文時代から江戸時代までの住まいについての展示であるとか古い時代の資料から触れるものは触れるようにした展示の工夫をしております。昔の住まい、衣服と装飾、食と調理、遊びと娯楽、遊びと娯楽につきましては部屋を別に設けて懐かしいビー玉やメンコなど昔よく遊んだ内容の遊びを紹介するために一部屋つかって遊びのスペースを作って展示を行いました。それから戦時中の暮らしは忘れてはならない花巻空襲の記憶として展示し、戦地の暮らしや銃後の暮らしについて実物を展示してあります。このふれてみる歴史と暮らしには博学連携とありますが、小学校3・4年生の社会の教科書の中に昔の道具と暮らしという単元があり、その内容と連動するように各学校に呼びかけて来ていただくよう工夫をしています。次に、共同企画展「ぐるっと花巻再発見！～イーハトーブの先人たち」です。毎年市の生涯学習課が主催となって各館が共同でそれぞれの規格を持ち寄って企画展を行っています。博物館では南部杜氏～酒造りのわざとこころ～ということで、南部杜氏の発祥の歴史や酒造りにかける思い、日本酒の作り方、信仰と文化といった部分に焦点を当てて、南部杜氏とはどのような人たちだったのかということを紹介しています。なお、石鳥谷歴史民俗資料館にある重要有形民俗文化財1788点の酒造りの資料を活用しながら、昔の古文書も合わせながら酒造りの歴史を辿ったという内容でございます。

次は年度またぎの展覧会になります「花巻人形展～花鳥風月～」は5月7日に終了しました。この人形展には3,600人と今年もたくさんのお客様に観ていただきました。企画内容は花鳥風月ということでそれぞれの一字を取りまして、花・花巻人形の魅力、鳥・動物に焦点を当てまして「酉」や愉快的な動物のほかに花巻人形で作られた動物の紹介、風・時代の風を感じる人形、月・季節を感じる人形といった構成となっております。関連事業といたしましては展示解説会のほかに人形の絵付け体験、篠笛山口流演奏会ということで山口流家元の山口千壽さんにご来館いただきまして一門の方とともに演奏会をいたしました。展覧会に関するものは以上です。

引き続き12頁の教育普及活動でございます。教育普及活動に関しましては、講座と体験学習の2つになっております。学習講座として博物館講座、古文書解説会などを開催しております。それから市民や小学校の要望に応じて、学芸員を派遣しましていろいろな資料を活用していただきながら出前講座を行っております。講座に関しましては全部で33回行っております。展覧会関連のもの、エジソン展に関連するもの、それから南部杜氏の展示解説会、花巻人形展の解説会・篠笛演奏会といったものでございます。博物館講座といたしまして、古文書講座を3回開催しております。展覧会ところで先程ご紹介いたしました多田等観の博物館講座を開催しております。それから博物館講座世界遺産橋野鉄鉦山として釜石市教育委員会の森さんという方に講座を開催していただきました。花巻の煉瓦が世界遺産である橋野鉄鉦山において使用されたのではないかということが言われておりますが、そういったところをご紹介していただきました。先程の因幡学芸員の調査研究内容とも絡みますが、古館家の事績の一つとして紹介できる内容としてこれからも調査研究を進めます。それから、出前授業・出前講座ですが、一般と小学校に分かれております。二戸地区の文化財調査委員会をはじめ、市内の生涯学習活動をなさっている方、団体の方々に対しまして出前講座を行っております。花巻城の内容、各地区の歴史、熊堂古墳群などがございます。それから小学校における出前授業でございます。ここに記載しておりますが、4種類あります。花巻城に関するもの、花巻空襲に関するもの、それから武器実装とありますがこれは実際に戦国時代に使った火縄銃であるとか、鎧甲冑を着る体験でございます。昔の暮らしなどをご紹介した内容でございます。次に体験学習に移ります。体験学習につきましては夏休みや秋の大型連休などの長期の休暇に合わせて開催しております。それ以外にも地域の子供会からの要望に応じて柔軟に対応してございます。博物館主催のものとその他の地域活動のものに分けてございますが、体験学習の内訳に関しましては下のところに載っております。勾玉づくり、琥珀玉づくり、縄文弓矢・火起こし、あんぎん編み、とんぼ玉づくり、花巻人形の絵付け、壁掛け傘づくり、こけし絵付け、夢灯りづくりの以上9種類を全部で20回ほど開催しております。体験学習に続きまして、3博物館実習、学芸員資格取得に関する館務実習を毎年8月に実施しております。去年の実習期間は8月1日から7日まで、実習生は盛岡大学1名でございました。以上私の方からご説明させていただきます。

(事務局 照井)

続きまして、管理係照井の方から11博物館の入館状況についてご報告いたします。平成28年度の入館者でございます。有料入館者につきましては1年の計で一般が12,125名、高校生大学生専門学生も含まれますが453名、小学生中学生が2,117名、合わせて14,695名となりました。無料入館者は減免や障がいの方などですが、一般は1,805名、高校大学生が15名、小中学生2,063名、就学前の小学生になる前の子供が614名、合わせて4,497名、合計19,192名の入館者となりました。下の年度別入館者数推移グラフで、各年度の入館者の推移をご覧ください。28年度は27年度より少し増えております。続きまして石鳥谷歴史民俗資料館の入館状況をご報告いたします。28年度の入館者です。有料入館者の一般は1130名、高校大学は14名、小中学生は55名、無料入館者はふるさとパスポートを使用する小中学生がほとんどでした

が231名、合わせて1,430名となっております。こちらでも年度別の入館者のグラフを見ていただきますと、ここ数年は1,500名から1,400名あたりで推移しております。

(事務局 鈴木)

最後に東和ふるさと歴史資料館についてご説明いたします。同館は平成27年4月より休館中でしたので、28年度の活動はありません。参考までに、同館の検討委員会は昨年12月に市に対して再開の要望書を提出しました。検討委員会はこれをもって解散しております。同館の資料の一部につきましては東和コミュニティセンターでの展示を計画しているところでございます。平成28年度の事業報告につきましては、事務局からは以上でございます。

(佐藤議長)

ただ今の説明に関しまして、ご質問やご意見をお願いいたします。いかがでしょうか。最後聞き取れない部分がありましたので、私からでよろしいでしょうか。東和のところですけども、東和ふるさと歴史資料館は平成27年4月から休館をしているわけですけども、再開の要望があつて、最後のところで東和のどこかで展示をされるという説明があつたかと思うのですが。

(事務局 鈴木)

現在東和コミュニティセンターの建設計画が進んでおります。こちらの中にふるさと歴史資料館の資料の一部を展示する計画を検討中です。

(佐藤議長)

これから東和のコミュニティセンターを作ることは決まっているということで、資料館という形ではなくその中に資料の一部を展示するということですね。

(事務局 鈴木)

その展示スペースをどのようにするかということ、これから詰めることになっていきます。

(佐藤議長)

東和のコミュニティセンターを作ることは市の方針として決まっているということでしょうか。

(事務局 鈴木)

こちらは基本設計がスタートしていると聞いております。進み具合によって展示に係る部分を協議していくこととなっております。

(佐藤議長)

わかりました。

(阿部委員)

出前講座のところで、昔の暮らしというのが多いようですが、どのような内容でしょうか。

(事務局 小原)

小学校3年生がメインとなっております。小学校3年生4年生の教科書の中に昔の道具と暮らしというところを実際に手に取って、お父さんお母さんお祖父さんお祖母さんの話を聞いて、これはどのように使ったのだろうか、今はどのように進化したのだろうか、人の工夫としてどのようなものがあつたのかといったことを学ぶところがございます。例えば、電話やアイロンなどが現代においてどのように進化してきたか、工夫されてきたということを学ぶ内容となっております。

(佐藤議長)

よろしいですか。

(阿部委員)

具体的にどのようなことなされたのかを聞きたいです。有るものでまかなったでしょうか。

(事務局 小原)

実際に蚊帳を吊ってみたり、農家で使っていた「えじこ」の使い方を紹介したりして昔の人はどうな生活をしていたのかを。

(阿部委員)

意外と限られているわけですね。

(事務局 小原)

そうですね。

(阿部委員)

よくありましね、えじこが。

(事務局 小原)

ありました。また、花巻歴史民俗資料館に収蔵していた資料もありますし、それらを活用しながら、出前講座を行いました。

(平野委員)

昔というのはどれぐらい昔なのですか。

(事務局 小原)

古いところでは縄文時代で縄文土器の欠片を用意して、土器のいろんな形や文様があるこ

とを説明し、歴史に興味を持っていただくような内容もあります。

(佐藤議長)

他にはいかがでしょうか。

(富永委員)

博学連携についてですが、出前授業・出前講座のところをみると中学校が全くありません。で、何かしらの形があるのではないかと思います。石鳥谷歴史民俗資料館をみても段々先細りの感じがあります。両者が寄り合って何某らの、ひょっとしたら出前講座だけでない何某らの形を生み出せるのではないかということで、いろいろな話し合いをしてみたいと感じました。

(佐藤議長)

博学連携の中で博物館学芸員の方々と学校の先生がいろいろと話をされることがあるかと思いますが、小学校に出前授業で出かけることが多いようで、今のところ中学校の先生とはコンタクトをもっていないということでしょうか。

(事務局 小原)

これは出前という形ですが、博物館に来ていただいて実際に展示を見ていただく学校見学というものがございます。それについては、この資料には含まれておりません。学校見学といってもいろいろな形がありまして、説明を要しないで見学される場合もありますし、学芸員の用意した学習シートを活用しながら見学する場合があります。そのような中で昨年宮野目中学校、湯口中学校では博物館に来てこちらで用意した博物館見学シートを活用して、問題を解くような形で見学されました。ご指摘のありましたように、学校の先生方に興味を持っていただくことが大事であると考えておりますので、学芸員も柔軟に対応しますので、ご相談をいただいているいろいろな教材を作って、花巻の歴史や日本の歴史に興味をもっていただけるような展示・学習内容に取り組みたいと考えております。

(佐藤議長)

あまり岩手県では事例が多くありませんが、中学校の授業で使うときに、本物を授業で使えるよう学校へ貸出するキットを作って、貸し出しを行っている館もありますので、急に仕事を増やすのは大変ですので直ぐにやれということではないのですが、出来るだけ中学校との連携も何らかの形で深めていかなければと思います。私の知っている範囲では、例えば江戸時代か明治時代の肥の桶を学校に出しているところもあったりして、農業に関する歴史の授業で使うなどして、中学生が実物を目の前にし、触れてみるなどは学習的な意味も違うと思いますし、それが博物館に返ってくることもあるので、参考にして検討していただければと、ただ、「良いことだ」と言って広げすぎますと学芸員の人数は限られていますから、オーバーワークにならないよう調整しながらお願いします。

(事務局 小原)

予め用意できる教育普及資料を若干用意しておりますので、ご相談しながら活用をしていただければと考えております。

(佐藤議長)

他にはいかがでしょうか。

(浅沼委員)

所蔵資料の関係ですが、花巻人形のところで資料点数が増えているので検討を要しなければならぬとのことでしたが、収蔵庫との兼ね合いについてのことと思われませんがその辺りの状況のことをお聞かせ願います。

(事務局 小原)

博物館には寄贈資料や購入資料の他に、預かっている資料ということで寄託資料というものがございまして、合わせて3500点ほどあり、今のところ収蔵庫には余裕がありますので、博物館に無い資料は収集対象となります。

(事務局 高橋館長)

数年前までは約1,500点余りでしたが、今は3,000点を超えています。但し、新しく入って来るものをみていると、花巻人形の特色である様々な種類の人形があるということに改めて感じております。それを選択して受け入れるということではなくて、取敢えず花巻人形はまだ研究の余地があるということで、収蔵庫の問題はありますが、まだ出来るだけ集める価値があるものと思っています。ので、人形の収集にはこれからも力を入れていきたいと思っています。

(浅沼委員)

同感です。

(佐藤議長)

この博物館の大きな特徴の一つで、他では出来ないことですから。

(浅沼委員)

逆に言うと、収蔵庫が無いから収集をやめるのではなく、収蔵庫を増やしましょうという発想にならないとダメだと思います。感想です。

(佐藤議長)

寄託品もたくさんあるのでしょうか。細かい話ですが、こちらの博物館では寄託者との契約はどのようなものが結ばれていますか。

(事務局 小原)

お預かりしてから3年毎に更新手続きをしています。

(佐藤議長)

わかりました。他にはいかがでしょうか。無いようであれば議事の1は終了したいと思

ますが、よろしいでしょうか。

全委員 同意

(佐藤) 議長

議事の2平成29年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。

(事務局 小原)

今年度の事業計画をご説明いたします。A4一枚のもので平成29年度花巻市博物館事業計画という資料がありますので、ご覧願います。それからお手元にお配りしております行事案内パンフレットも併せてご覧願います。

それでは、平成29年度花巻市博物館事業計画の展示部門と教育普及部門になります。調査研究につきましては前年度事業で報告しておりますが、継続して進めていくこととなります。展示活動事業から説明いたします。テーマ展花巻人形展花鳥風月については5月7日に終了しております。現在は企画展没後50年多田等観チベットに捧げた人生と西域への夢という展覧会を行っています。多田等観は1967年昭和42年2月18日に亡くなっており、今年が50年目に当たるので、区切りとして大きな展覧会を企画しました。今回の展覧会の特徴は京都龍谷大学龍谷ミュージアム、大宮図書館、それから多田等観の生まれた秋田県秋田市の県立博物館に収蔵されている関連資料もお借りしてきてまして展示しております。期間は7月1日から8月20日までです。また、8月1日から一週間は西域関連として宮沢賢治の「雁の童子」という童話の直筆原稿を展示する企画を用意しております。関連事業といたしまして、明後日に大陸から花巻へ多田等観をめぐる人々と題しまして、北海道大学スラブユーラシア研究センター共同研究員の高本康子さん、多田等観研究の第一人者の方の講演を企画しておりましたので、是非ご聴講をお願いします。8月5日には館長講座がございます。これは西域多田等観と宮沢賢治という演題で行います。8月20日郷土芸能特別公演として多田等観と花巻の所縁の地である花巻湯口地区に伝来いたしました岩手県指定無形民俗文化財円万寺神楽の公演を考えてございます。以上が企画展に関するものでございます。次にテーマ展花巻城展、9月16日から11月12日までの展覧会を行います。この展覧会では花巻地方の発展の礎となった花巻城の成り立ちや人又は物について、関連資料で辿ってまいります。こん会の展覧会につきましては、盛岡市遺跡の学び館の室野さんの講演会、館長講座「花巻城」では、花巻城保存調査研究検討委員会の委員長をしておりますので、その調査成果などもご紹介いただけるものと考えております。それから、展示解説会として、今回この展覧会を企画した小田桐と高橋の2人が解説いたします。9月16日、10月8日、11月11日の3回です。次に共同企画展で去年は南部杜氏でしたが、今年は東和町出身の染織家及川全三です。岩手県というか日本におけるホームスパンを工芸品としての地位を確立させた人物である及川全三を顕彰する展覧会を考えております。関連事業としまして県立大学の菊池直子先生に講演会をお願いしております。12月9日となっております。それから花巻人形展を来年の5月6日まで開催する予定です。関連事業といたしまして館長講座花巻人形の魅力となっております。以上が展示活動事業でございます。

それから教育普及事業ですが、講座と体験学習ということで展覧会関連の講座として館長講座3回、外部講師による講演会3回となっています。内容は先ほどご紹介したものです。古文書講座について昨年度は初級編だけでしたが、今年は初級編と中級編として各3回を同じ日に午前と午後とに分けて行います。体験学習はパンフレットの下の方にありますが、7月16日までの分はすでに終了しております。花巻人形絵付け、勾玉づくり、琥珀玉づくり、夢灯づくり、今年新たに設けたものが鎧の着装体験です。実際に着ることが可能な兜鎧があります。また、火縄銃を持ってみたり、模造刀により重さを体験してもらう内容となっております。体験学習は11回ですが、他に市民からの要望に対応している体験学習や講座も行っております。以上となります。

(佐藤議長)

では、ご質問やご意見をお願いいたします。

(伊藤委員)

長年要望してきた、花巻城関連の企画展が行われるようでうれしく思っています。大変ご苦勞様です。この花巻城展は今年が最初で、今後も続くものと思っておりますが、よろしければこういうテーマで続けたいとかで、次年度とは言いませんが、今後の地元の展示の見通しについて教えていただければ幸いです。

(事務局 高橋館長)

今回は初めてということで、毎年やるかどうかということについては、中身にもよりますし、それからテーマを組んでというところまでは行ってないので、とりあえず今年はやると、ですが希望としては毎年の方では考えていますが、たぶん、毎年となるとかなりの負担となって同じようなものが展示できてない、新たな面を研究で成果が出た段階でまたやるという、そうゆうことになろうかと思いますが、少なくとも今回一回きりの展示ということは考えておりません。今後、研究の進み具合によって、3年に一度になるのか、5年に一度になるのかはありますが、やはり博物館の事業でありますから、基本の調査研究がしっかりできてそれが紹介できるというのが展示になりますので、若い学芸員の人達に頑張ってもらいながら、できれば、毎年とはいかなくても、将来もやっていく方向で考えていきたいと思っております。

(伊藤委員)

今の若い学芸員さんたちは大変熱心で、しゃべりもわかりやすく、素晴らしい活動をしていますので、毎年できるのではないかと思うのですが、まず、よろしく願います。期待して待っています。

(佐藤議長)

他にはいかがでしょうか。

(富永委員)

先ほどの博学連携とも関係するかもしれませんが、例えば体験学習の出前授業のようなものは可能でしょうか。学芸員さんに来ていただいて授業をすることもありますが、その仲立ちをしていただいて、例えば花巻人形づくりを授業として行うというのであれば、総合的な学習の時間とか美術の時間など授業の中でということが考えられると思いますが。

(事務局 小原)

実は明日、太田小学校におきまして鎧の体験があります。鎧と刀と火縄銃を持ち込んで実際に子供たちに教える講座を用意しました。こういったものも可能ですし、次の土曜日には琥珀玉づくりということで、子供会での授業ですが、そちらへ出前という形になっておりました。花巻人形につきましては桜町に平賀工芸社というところがあり、そこから平賀恵美子さんが絵付け体験の講師として来ていただいています。やり方によっては博物館が仲介して平賀さんと一緒に行くことは簡単だと思います。花巻人形を最初から作ることであれば、いろんな工程がありますので、昔やったことがあるようではありますが、美術の先生方と相談してみても可能であればいいなと思っています。

(佐藤議長)

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

(富永委員)

はい。

(佐藤議長)

他にはいかがでしょうか。お願いします。

(晴山委員)

入場料の件ですが、年々入場者数も減ってきていますし、それはなぜかを考えると魅力の発見に繋がるのではないかと思います。私は石鳥谷でグリーンツーリズムを受け入れしております。その際に雨が降った場合や農作業ができない場合は石鳥谷歴史民俗資料館を見学できるシステムがありますが、入場料が何割引きかにはなっているようではすけれども、高校生中学生など受け入れた生徒を連れて行っても、生徒たちはお金を持って歩かないので受け入れ農家が支払っている状況です。入場料を無料にしていきたいと思います。生徒分だけでなく随行の農家さんも入館できるようなシステムであれば、中の説明をすることも可能であるので、単に子供たちに見学させるだけでなく受け入れた農家さんも一緒に入って「この道具はこうやって使うんだよ。こうやって土を掘るんだよ。」と些細なことでも会話ができると思うので、入場料について考慮していただければと思います。これは石鳥谷歴史民俗資料館だけでなく宮沢賢治記念館も入っていることですし、博物館は入っていませんがその辺りのことも考えていただければ幾らかでも入場者数が増えるのではないかと思います。

(佐藤議長)

その事業というのは花巻市と連携しているものですか。

(晴山委員)

そうです。市と連携している受け入れ農家の会があります。

(佐藤議長)

石鳥谷歴史民俗資料館や宮沢賢治記念館は見学先になっているですね。

(晴山委員)

グリーンツーリズムの受け入れに限りいいですよというシステムがあるのですが、もう少し安くか無料にして貰えないかと。

(佐藤議長)

ここだけでは検討しづらい事項ですね。減免措置の範囲を広げていただきたいということですね。

(晴山委員)

先ほど言いました、魅力について比較するものではないですが、昭和の学校はみなさん行ったことがありますか。先ほどの昔の暮らしの内容と比較すると博物館のほうが負けている感じがします。行ってみたい、聞いてみたい、やってみたいと思わせるためには、出前をやる際には実物が必要であると思いました。

(事務局 鈴木)

グリーンツーリズムの関係については、農政課から付き添いの方も入館料の減免対象にするよう協議がありましたので、そのようにしており、今後も同様な扱いになると思われま
す。生徒自身の分についてはこれからの検討課題と考えます。

(佐藤議長)

よろしいですか。他にはいかがでしょうか。特になければ2番目の平成29年度事業計画
についての検討を終了します。よろしいでしょうか。次に議事の3番目のその他に移りま
す。事務局及び委員の皆様からその他で採り上げるべきことがありましたら発言をお願い
します。

では、以上をもちまして、議事の一切を終了いたします。ご協力をいただきましてありが
とうございました。事務局に司会を戻します。

(事務局 鈴木)

佐藤会長ありがとうございました。それでは次第の4番その他でございます。皆様方から
連絡事項等なにかございましたら。特になければ4番を終わります。

それでは閉会となります。本日はご出席いただき、熱心にご審議いただきありがとうござ
いました。この後は企画展の観覧をお願いします。これにて平成29年度第1回花巻市博

物館連絡協議会を終了いたします。